

事例

あら き
荒木の良さを活かしたおもしろウォーク
(心を揺さぶられる体験) で魚大好き！

いずもし あら き
出雲市立荒木幼稚園 (島根県)

幼稚園における食育は、食べる喜びや楽しさを味わい、様々な活動を通して食べ物への興味や関心を持ったりするなどし、食の大切さに気付き、自ら進んで食べようとする気持ちが育つようにすることが大切です。

本園は、出雲大社の南約3 kmに位置しており、周辺には旧 大社駅舎や県立古代歴史博物館等のある、歴史と伝統が感じられる地域にあります。本園では、令和元(2019)年度から「大好き荒木探検おもしろウォーク」という、幼児の心を揺さぶることを目的とした体験を、ふだんの生活や遊びに取り入れた活動を展開しています。

その一環として、園の近くにある大社築港へ出かけ、生簀いけすにいる生きた魚や珍しい魚を見たり直接触ったり、一つ一つ丁寧に名前を覚えてもらうなどして、魚に親しみました。また、停泊している大きな船にも順番に乗せてもらいました。漁師から魚の話を聞いたり実際に触ってみたりする中で、幼児から「本物の魚をみんなでも食べたい。」という声が上がったため、1.2mのヒラマサの解体を実演してもらいました。目の前でさばかれた魚の一つ一つの部位を覚えてもらい、幼児は目を輝かせて見ていました。「すごい!」、「骨って太いな。」といろいろな言葉が溢せられ、さらに、しゃぶしゃぶにして食べると「口の中でとろけるね。」と大喜びでした。

また、年長児は地域のかまぼこ工場に出かけ、魚の天ぷら¹やちくわを作る様子を見せてもらいました。見学するだけでなく、地域の施設を借りて、魚のすり身から天ぷらを自分たちで作って食べました。大社築港で獲れた魚を天ぷらにして食べたことがきっかけとなり、園に戻ってからも自分たちの天ぷら製造機を作って本物らしくさつまいもや玉ねぎなどの野菜の天ぷらを作るなど、「お店屋さんごっこ」に発展していきました。

食育の取組を通じて、幼児は切り身ではない丸ごと1匹の魚に興味を持つようになりました。魚は「骨があるから食べにくい」、「皮が苦手。」と苦手意識を持つ幼児もいましたが、日頃からこのような体験を繰り返すことで、魚を食べることの楽しさや喜びに気付くことができました。また、こうした継続的な体験活動は、食を通じて食料の生産に関わる人々への感謝の気持ちを持つことにつながるだけでなく、家庭との連携や協力が活動の支えとなり、食を通して地域の良さを知ることができると考えます。今後も地域の良さを生かした体験活動を通して、食べ物を大切にする気持ちや地域の人々への感謝の気持ちが自然に芽生えるよう取り組んでいきたいと思っています。



大社築港には珍しい魚がいっぱい



ヒラマサの解体ショーの様子



うわ〜！しゃぶしゃぶおいしいね

1 魚のすり身に野菜(玉ねぎ、ごぼう、さつまいも、コーン、いか)等の具材を混ぜて油で揚げたもの